

都市の地域特性の形成と展開過程・序論

基幹研究「日本における都市生活史の研究(第二期)」の研究概要

上野和男

1 共同研究「日本における都市生活史の研究」(第二期)

(1) 全体研究計画

本研究は、都市住民の生活史についての歴史学、考古学、民俗学を中心とする学際的研究である。国立歴史民俗博物館のこれまでの都市研究は都市の生活空間に焦点を当ててきたが、本研究は都市住民の生活史に焦点をあてて、流通・消費などの経済と祭祀儀礼・都市民俗などの文化に注目し、都市の都市性を明らかにすることを目的とする。研究期間は六年間のうち、最初の三年間(一九九六―一九九八)は「共同研究」として、都市生活史についての全般的な討議を行う。後半の三年間(一九九九―二〇〇一)は、特定の都市をフィールドとする研究を試みる。研究班は六年間にわたって、ほぼ一六〇〇年を境に二班構成とする。一六〇〇年以前の都市史を課題とするA班は「古代・中世の都市をめぐる流通と消費」を研究課題として、政治や生産ではなく流通・消費などの経済的側面から都市生活史にアプローチする。具体的には、①財貨とサービスの流通・消費の様相の解明、「物価表」の作成、②流通・消費の場の解明、都市構造、住民構成との関係、などを明らかにする。一六〇〇年以降の都市史を課題とするB班は「都市の地域特性の形成と展開過程」

を研究課題として、都市の地域特性が近世以降どのように形成されてきたかを、流通・消費などの経済的側面と都市民俗・祭祀儀礼などの文化的側面からアプローチする。

第二期(一九九九―二〇〇一)の個別の研究課題は、A班は「古代・中世における流通・消費とその場」、B班は「都市の地域特性の形成と展開過程―一八―一九世紀の下総地域の内陸舟運と流域都市を中心に―」である。

これまで国立歴史民俗博物館では発足以来、全体課題「都市における生活空間の史的研究」のもとに、三期一二年間にわたって都市史研究にとりくんできた。一二年間に一一課題の共同研究を実施し、さらに一九九三―一九九四年度には総括的研究を実施した。この共同研究は、①都市の空間構造に重点があり、都市住民の生活史研究が充分ではなかった。②政治都市に研究対象が傾斜し、都市の経済的機能その他の研究が十分であった。③事例的研究が多く、都市の概念の問題や都市研究の一般理論化が充分ではなかった、などの問題があった。したがって本研究は、都市の流通・消費などの経済と文化に注目し、都市住民の生活史を明らかにすることを目的とする。

また、本研究は第一期研究として、一九九六年度から三年間、共同研究を実施して、都市生活史研究の問題点について検討を重ねてきた。第

一期の共同研究の成果をふまえて第二期においては、A班は、古代・中世の商品・サービスの流通・消費構造とその場の問題を解明するために、文献資料・発掘資料を収集し、物価表を中心とする総合的な「都市生活史データベース」を作成する。B班は、利根川沿岸から江戸（東京）にかけての関東地方の都市の地域特性を、流通・消費・文化に焦点を合わせて実証的に明らかにし、歴博の企画展示のシナリオを作成する。

第一期は歴史学、考古学、民俗学などの分野における流通・消費・文化にかかわる最近の都市研究を検討し、第二期に予定したフィールドワークなどの共同作業の基礎を構築することが目的であった。A班においては、歴史学における文献による流通・消費の研究、とくに商品やサービスの価格についての研究と、陶磁器を中心とした考古学の流通・消費の研究をすり合せを行い、多様性と大量性が都市的流通消費の特質であることを確認し、具体的な流通商品の照合をも試みた。さらに富士吉田などで見学調査を実施し、流通消費の場としての市・宿を確認した。B班は、都市地域特性に関するこれまでの各分野の研究を検討し、商品、河岸、舟運、都市構造、芸能興行、祭礼、民間信仰、言語など流通・消費・文化を中心に都市地域特性を明らかにする際に問題となる都市的要素を抽出した。また、第二期研究に備えて、佐倉、成田、佐原、銚子、関宿など利根川流域から江戸（東京）にかけての諸都市の予備的調査を実施し、それぞれの都市の特性について予備的検討を行なうとともに文書などの史料を確認した。

A班・B班とも第二期研究に向けた基礎的作業をほぼ予定どおり終了し、第二期における都市生活史データベースの作成と、利根川流域から江戸（東京）にかけての諸都市のフィールドワークの基礎が整った。

しかしながら、第一期研究はつぎの二点について問題があった。ひとつはA・B両班の連携の問題である。本研究においては、これまで二度（第一年度の発足時点と第二年度の中間点）にわたって合同研究会を開

催し、全体の研究目標と中間点での各班の議論について確認したが、流通・消費から都市性を明らかにしようとするA班と、都市地域特性を明らかにしようとするB班とは、対象とする時代の違いもあって議論は必ずしも十分に噛み合わなかった。A・B両班のいっそうの連携は第二期の課題である。いまひとつは、B班の研究対象の選択の問題である。B班は三都以外の都市の地域特性を明らかにするため、対象として名古屋を中心とする地域を選定し、フィールドワークにそなえての予備的研究も実施する予定であったが、名古屋地域の研究状況は、本館の共同研究としてフィールドワークを実施するには困難な状況であることが明らかになった。そこで、対象を関東地方の利根川流域から江戸（東京）にかけての都市に変更した。

歴史学、考古学、民俗学の各分野において、国内外とも都市研究は近年とくに活発化しつつある。歴史学においては、一九八〇年代以降中世史・近世史を中心に、流通・消費などの経済構造や市・宿などの都市構造の研究が活発であり、考古学では多くの都市遺跡の発掘にもなっており、陶磁器などの流通・消費の研究がさまざまな成果をあげつつある。さらに民俗学においても都市祭礼、職人、町場組織などを中心とする都市民俗研究が進展しつつある。しかしながら、それぞれの分野を超えた都市生活史の共同研究、とくに本研究が課題とする流通・消費・文化に焦点をあわせた学際的研究は、本格的には試みられていないのが現状である。本研究の特徴は、流通・消費などの経済と文化に注目して都市住民の生活史を明らかにすることにある。このため第二期研究においては、特定のフィールドや共通作業課題を設定して、「共同性」の高い研究プロジェクトとする。具体的には、A班は、古代・中世の商品・サービスの流通・消費構造とその場の問題を解明するために、文献資料・発掘資料を収集し、物価表を中心とする総合的な「都市生活史データベース」を作成し、国立歴史民俗博物館のデータベースとしての公開をめざす。B

班は、利根川沿岸から江戸(東京)にかけての都市の地域特性を、流通・消費・文化に焦点を合わせて実証的に明らかにし、歴博の企画展示のシナリオを作成し、今後、関係地域の博物館と連携して企画展示などによる研究成果の公表をめざしたいと考えている。

なお、この基幹研究に関連して、文部省科学研究費補助金・基盤研究A(1)「伝統的方都市の地域的特性とその変容に関する比較研究―関東圏と中部圏を中心に―」(二〇〇〇～二〇〇二年度)(研究代表者・上野和男)を受けた。

(2) 研究成果

一九九九年

一九九九年度はA班は四回の共同研究会、B班は三回の共同研究会と共同調査を実施した。第一回研究会はA班との合同研究会として開催し、基幹研究「日本における都市生活史の研究」の全体の研究目的、研究計画を確認した。このほかA班の研究会は、古代・中世における流通・消費についての一般的問題についての議論とともに、古代・中世を中心とする「都市生活史データベース」作成のための具体的な問題点や分析すべき史料の検討を行った。とくに、商品やサービスの価格の単位や地域差の問題などについて検討した。第二期A班の主要な研究目的である「都市生活史データベース」の作成にも着手し、文献ごとに分担を決めてデータ集積を開始するとともに、コンピューターに試験的に入力することによって、フォーマットや検索項目の具体的検討も開始した。B班は二回の研究会を調査対象である流域都市の土浦と市川で実施し、共同で市街地や河岸などの調査を行って共通認識の深化につとめるとともに、各調査員が分担して調査を行った流域都市の研究報告を開始し、流域都市の都市地域特性の把握の方法や比較基準についての検討も開始した。

本基幹研究「日本における都市生活史の研究」第二期は、第一期の研

究成果をふまえて、「共同性」の高い具体的な研究を行うことを目的としている。A班は古代・中世を中心とする「都市生活史データベース」の作成、B班は利根川から江戸に至る流域都市の地域特性についての調査研究である。A班は、共同研究員のほかに業務補助も加えて、データベース作成のための文献の選定、データの試験的入力、データベースのフォーマットの検討などを行い、データベース作成の具体的な作業が順調に推移している。B班は流域都市別に調査班を編成し、本格的な調査と資料収集を開始した。しかしながら、調査旅費の不足によって、第一年度の調査が十分に実施出来なかったことが、本研究の最大の問題点であり、第二年度以降、調査旅費の確保が重要である。A・B両班の連携を強化するために、第一回の研究会を合同研究会として実施し、全体的な研究目的、研究計画を確認したが、今後も両班の連携強化が必要である。

二〇〇〇年度

この基幹研究は、「C」タイプの共同研究、すなわち従来「特定研究」として実施していた、フィールドワークや共同作業を重視する研究プロジェクトであるが、二〇〇〇年度はA班・B班とも三回の共同研究会と共同調査・共同作業を実施した。A班の研究会は、交換手段としての貨幣の問題のほか交通や開発の問題など古代・中世における流通・消費についての一般的問題についての議論とともに、古代・中世を中心とする「都市生活史データベース」作成のための具体的な問題点の検討や入力フォーマットの作成にあたった。B班は二回の研究会を調査対象である流域都市の野田と水海道で実施し、共同で市街地や河岸などの調査を行って共通認識の深化につとめるとともに、ひきつづき各共同研究員が分担して調査を行った流域都市の研究報告を行い、流域都市の都市地域特性のについて本格的に検討した。また、B班ではこの基幹研究の成果を展示にどう具体化するかにについての検討を開始し、いくつかの展示構想案についての検討した。

二〇〇一年度

本基幹研究では、古代中世の都市の流通・消費を主題とするA班は、古代中世を中心に日本の都市の「都市性」を明らかにし、近世以降の都市の流通・消費・文化を主題とするB班は、近世以降の都市性の地域差とその形成要因を明らかにするのが課題である。A班では、都市の都市性を商品やサービスの流通・消費の構造について、特に物価に注目し、「都市生活史データベース」の作成作業を進めてきた。データベース作成の基礎となる物価についての時期差、地域差、および単位について詳細な検討を行うとともに、データベース作成を進めた。B班では、下総地域の都市の地域特性について、銚子、佐原、野田、水海道、関宿などの主要都市のフィールドワークを実施し、近世以降の利根川から江戸川にかけての流通経路上の機能分担が、都市の地域特性に深く関わっていること、祭礼や都市民俗において、この地域の都市がきわめて多様な性格をもつことが明らかになった。都市空間研究から都市生活史研究へと転換をはかる本基幹研究の当初の目的は一応、果たされたと考える。

2 B班「都市の地域特性の形成と展開過程——一八〇—一九世紀の下総地域の内陸舟運と流域都市を中心に——」

(1) 研究目的

本研究は、一六〇〇年以降の都市生活史をを対象とし、「都市の地域特性の形成と展開過程」を研究課題として、都市の地域特性が近世以降どのように形成されてきたかを、流通・消費などの経済的側面と都市民俗・祭祀儀礼などの文化的側面からアプローチするのが目的である。第一期の研究成果を踏まえて第二期は、一八〇—一九世紀における下総地域、とくに利根川、江戸川流域における内陸部の舟運とそのルート上に形成された小都市群（流域都市）を事例として、近世以降の都市の形成と展開を説明しようとするものである。前近代社会における都市的要素は、

商業・手工業を根幹としつつも、軍隊、政治支配システム、流通、宗教、文化など多岐に及んでいる。都市の地域特性を明らかにするためには、まずこうした個々の都市的要素の実態を歴史的に把握し、その上で全体像に迫ることが重要である。本研究では、これまで専ら江戸などの巨大都市域において検討されてきた、こうした都市的要素について、検討の範囲を江戸と銚子を結ぶ利根川・江戸川流域の多様な流域都市に拡大し、巨大都市群とは異なる都市地域特性を類型的に把握することを試みる。また、この基幹研究が国立歴史民俗博物館で組織される条件を生かして、研究成果の公表にあたっては、展示による叙述も試みる。

(2) 研究組織

共同研究員

- | | |
|-------|--------------------|
| 青山 宏夫 | 国立歴史民俗博物館歴史研究部 |
| 飯塚 好 | 埼玉県立民俗文化センター |
| 岩淵 令治 | 国立歴史民俗博物館歴史研究部 |
| 上野 和男 | 国立歴史民俗博物館民俗研究部 |
| 内田 忠賢 | お茶の水女子大学教育学部 |
| 宇野 功一 | 国立歴史民俗博物館COE非常勤研究員 |
| 大友 一雄 | 国文学研究資料館 |
| 小野 将 | 東京大学資料編纂所 |
| 久留島 浩 | 国立歴史民俗博物館歴史研究部 |
| 小林 忠雄 | 東京家政学院大学人文学部 |
| 小林 裕美 | 千葉県立房総のむら |
| 酒井 右二 | 千葉県立佐原高等学校 |
| 斉藤 善之 | 東北学院大学経済学部 |
| 島田 洋 | 千葉県立関宿城博物館 |
| 島村 恭則 | 国立歴史民俗博物館民俗研究部 |

鈴木 章生 東京都江戸東京博物館

鳥越けい子 聖心女子大学文学部

中井 精一 富山大学人文学部

吉田 伸之 東京大学大学院人文社会科学系研究科

吉田ゆり子 東京外国語大学外国語学部

若杉 温 千葉県史料研究財団

(3) 研究経過

第一回研究会 一九九九年六月五日、六日

(於：国立歴史民俗博物館大会議室および第二会議室)

・上野 和男 「日本における都市生活史の研究(第二期)―研究計画の概要と課題―」

・桜井 英治 「第二期A班の研究計画について」

・吉田 伸之 「第二期B班の研究計画について」

・全体的討議「B班の研究計画について」

・岩淵 令治 「『園芸』文化の普及」

・飯塚 好 「町の祭礼と村の祭礼」

第二回研究会 一九九九年八月二七日、二八日(於：土浦市立博物館)

・内田 忠賢 「東京湾岸における地域の変貌と生活世界―千葉県浦安市を事例として―」

・佐藤裕貴子 「清宮秀堅の蔵書・著作と書簡に見る地方文人」

(ゲスト・スピーカー)

・土浦市立博物館の展示見学

・土浦市街地の調査、および土浦市八坂神社の祭礼調査

第三回研究会 二〇〇〇年二月五日、六日(於：市川市立市川歴史博物館、および国立歴史民俗博物館第二会議室)

館、および国立歴史民俗博物館第二会議室)

・市川歴史博物館の展示見学

・市川市行徳地域の旧河岸、および市街地調査

・小林 裕美 「年中行事から見る町の生活―千葉県佐原市の場合―」

・斉藤 善之 「近世後期江戸市場圏における行徳と位置」

第四回研究会 二〇〇〇年七月一日、二日(於：野田市公民館)

・吉田ゆり子 「野田における河岸と船問屋―特に「鬼怒川下り荷物」との関係から―」

・島田 洋 「鬼怒川水海道河岸の機能―五木田家蔵「御用留」の

分析を通じて―」

・宮崎 等 「野田市域の歴史的概観」

・野田市内巡検

第五回研究会 二〇〇〇年一〇月二二日、二三日(於：水海道公民館)

・小野 将 「近世常総地域平田門人論へ向けてのノート」

・鈴木 章生 「隅田川流域の景観」

・水海道市内巡検

第六回研究会 二〇〇一年三月三日、四日(於：国立歴史民俗博物館)

・鳥越けい子 「サウンドスケープ研究の方法をめぐって―音の風景からたどる都市―」

・島村 恭則 「『歴史民俗学』は成立するか―歴史学と民俗学の協業

をめぐる理解と誤解―」

・中井 精一 「利根川下流域の言語調査報告―上方系語形の残存に焦点をあてて―」

・大友 一雄 「幕末海防期の御林と物流」

・上野 和男 「佐原諏訪神社の祭礼と祭祀組織」

(展示構想第一回検討会)

・島田 洋 「流域都市の展示構想」

・飯塚 好 「都市祭礼の展示」

・小林 裕美 「展示シナリオ」

・小川 裕美 「展示シナリオ」

・鈴木 章正「展示構成案隅田川」

・久留島 浩「館蔵の伊能家資料（茂左衛門家）から、どのように展示できるか―楫取魚彦・伊能節軒を中心として―」

・岩淵 令治「紙上展示について」

第七回研究会 二〇〇一年六月二日、三日（於：国立歴史民俗博物館）

・久留島 浩「民俗研究映像『風流のまつり・長崎くんち』の作成に

関わって」

〈展示構想第二回検討会〉

・大友 一雄「幕末海防期の御林と物流の展示構想」

・斉藤 善之「展示構想・利根川流域都市の変貌」

・吉田ゆり子「展示イメージについて」

・上野 和男「利根川・江戸川流域の都市地域特性の企画展示案」

・内田 忠賢「展示叙述案・利根川流域都市の盛り場と生活誌」

・島村 恭則「展示構想案〈在日朝鮮人〉の東京・下総」

・中井 精一「展示構成：利根川流域の地域特性」

・小野 将「展示構想をめぐって」

・吉田 伸之「流域都市の史的構造―展示イメージ―」

第八回研究会 二〇〇一年一〇月二〇日、二一日

（於：国立歴史民俗博物館ほか）

・小林 忠雄「熊本県人吉市の都市民俗―マチ場民俗の重層構造―」

・宇野 功一「明治時代の博多祇園山笠」

・深川・小網町巡見

第九回研究会 二〇〇二年二月二四日（於：国立歴史民俗博物館）

・青山 宏夫「樁海と水運に関する歴史地理学的予察」

・酒井 右二「一八世紀後半の佐原―村政運営の変容―」

・調査成果報告（全員）

・研究成果の取りまとめについての討議

（4）研究成果

一九九九年度

第一に第二期の研究目的を確認した上で、具体的な研究計画を作成した。まず、利根川から江戸にかけての流域都市のなかから、江戸・行徳、関宿、野田、佐原、銚子・旭の五つの地域を重点的の調査研究することとし、共同研究員を五つの共同調査班に編成した。また、今後の研究会開催計画（場所、報告者、見学地）を立案し、さらに資料収集計画を決定した。資料収集については各都市の重要文書（絵図を含む）をマイクロフィルムによって収集するほか、国立歴史民俗博物館所蔵の「伊能家文書」の写真撮影を継続するとともに、千葉県史編纂室ともマイクロフィルムなどによって資料を交換することとした。五つの地域の調査は二〇〇〇年春から本格的に開始し、マイクロフィルム撮影などによる資料収集も実施した。

共同研究会は三回開催した。第一回研究会はA班との合同研究会として開催し、基幹研究「日本における都市生活史の研究」の全体の研究目的、研究計画を確認した。また、第一回から三回までの研究会において、佐原、浦安、行徳など利根川流域都市の地域特性について共同研究員の調査にもとづく研究発表を行った。佐原の報告では、歴史資料から町の中行事を明らかにする試みや、祭礼の比較研究、文人を中心とする文化ネットワークの問題が報告され、また浦安の報告ではメンタルマップを中心手法において地域変貌について報告があった。また、行徳の報告では江戸を中心とする流通ルートにおける行徳の位置づけの再検討の必要性が指摘された。第二回、第三回の共同研究会では、土浦、市川の博物館見学とともに、土浦および行徳の市街地についても共同調査を実施した。

本基幹研究は、第一期三年間の研究成果の上に計画されたので、本研究の準備は前年までに整っており、その意味では研究会、資料収集など

研究計画はほぼ順調に推移しているといえる。しかしながら、職員旅費、研究員等旅費を含めた調査旅費はきわめて少なく、「特定研究」タイプの基幹研究でありながら、調査活動ができなかったことが最大の問題点である。今後は調査活動に必要な資金を確保することが必要である。

二〇〇〇年度

B班は、利根川から江戸にかけてのいわゆる流域都市の実証的研究が中心であるが、今年度も、江戸・行徳、関宿、野田、佐原、銚子・旭の五つの地域を重点的の調査研究することとし、共同研究員を五つの共同調査班に編成して調査を実施した。とくに佐原をはじめとする千葉県下の都市祭礼の調査、利根川下流域の言語調査、行徳を中心とする物資流通についての調査などを実施した。実地調査について第一年度は、調査費用の確保に問題があったので、今年度から科学研究費補助金・基盤研究Aによる研究「伝統的・地方都市の地域特性とその変容に関する比較研究―関東圏と中部圏を中心に―」（研究代表者・上野和男）と連携して調査にあたることとした。

共同研究会は三回開催した。一回目の研究会は、千葉県野田市で開催し、野田を中心とする物資流通に関する報告のほか、かつての河岸場を中心に野田市内の巡検を行った。また、二回目の研究会は水海道市で開催し、研究報告のほかに、やはりかつての河岸場を中心に水海道市内の巡検を実施した。この二回の研究会報告と巡検によって、奥川筋・鬼怒川筋から江戸にかけての物資流通経路、流通システムの概要を確認することができた。三回目の研究会は、利根川から江戸にかけて都市の地域特性についての報告と展示構想についての第一回目の検討を行った。報告はサウンド・スケープ論、木材の流通、歴史学と民俗学の協業をめぐる諸問題についての報告のほかに、実地調査にもとづく利根川下流域の言語、都市祭礼の報告があった。この基幹研究の成果にもとづく展示構想の検討では、それぞれの立場から六件の報告がなされた。展示構想を

どうとりまとめるかについては、次年度もひきつづいて検討することになった。

二〇〇一年度

①フィールドワーク

本研究は、第一期にひきつづいて、近世以降における日本の都市の地域特性を流通・消費・文化に焦点をあてながら、歴史学、民俗学、社会学、地理学などの研究者の参加を得て明らかにするのが目的であるが、第一期の研究によって、下総地域の諸都市、とくに銚子、佐原、野田、関宿、江戸・行徳など利根川流域から江戸にかけての都市を主たる対象とすることがすでに決定していたので、本研究の開始にあたって、まずこのことをあらためて確認するとともに、対象都市別の研究班を構成してフィールドワークを実施した。なお、フィールドワークの実施にあたっては、本基幹研究の職員旅費に加えて、科学研究費補助金・基盤研究A(1)「伝統的・地方都市の地域特性とその変容に関する比較研究―関東圏と中部圏を中心に―」（二〇〇〇年度～二〇〇二年度、研究代表者・上野和男）の経費も宛てた。また、フィールドワークと並行して、資料収集を積極的にすすめた。その際、千葉県史料研究財団や関係自治体の協力を得るとともに、マイクロフィルムを通しての資料の交換にもあたった。また、文献資料に加えて写真資料や映像資料も多数収集した。フィールドワークは、主要五都市のすべてにわたって実施し、ほぼ所期の成果をあげることができた。

②映像資料の作成

本研究では、また、対象都市の地域特性を映像によって表現する映像資料を作成した。具体的には、佐原の都市祭礼を中心として佐原の都市を表現した映像資料「新宿諏訪神社秋祭―北総佐原の二つの都市祭礼1―」（約一八〇分）を作成した（制作：国立歴史民俗博物館、制作協力：インターボイス）。来年度は、「本宿八坂神社夏祭―北総佐原の二つの都

市祭礼2―」を作成する予定である。この映像資料は、一つの都市を二分するように二つの神社が存在し、それぞれで祭礼が行われている、いわゆる「双分制的都市祭礼」に注目し、その典型的な事例のひとつとして佐原の祭礼を映像化したものである。また、フィールドワークの過程でさまざまな都市祭礼や都市構造についての写真資料を収集したので、これらはデータベースを作成して公開する予定である。

③都市地域特性

流通・消費の視点から、この地域の都市の特性として注目されるのは河川舟運の拠点となった河岸を中心とする都市である。利根川から江戸川にかけては数多くの河岸が形成されたが、その性格はきわめて多様である。これらの河岸の広範な調査を実施した結果、これらは一〇軒以下の小規模河岸、数十軒で構成される中規模河岸、一〇〇軒以上の大規模河岸に大別されることが明らかになった。規模が大きくなるにしたがって都市の構造と機能が複雑化する、という都市形成の原初的形態が確認できたとともに、小規模河岸であっても一応の機能を供え、その機能の分化も認められることが明らかになった。

この地域の都市文化は、江戸（東京）の文化の影響を受けていることが、地方文人、祭礼、言語などの調査から明らかになったが、一方、佐原の祭礼囃子のように江戸とは異なる文化を形成していることも明らかになった。また、利根川沿岸諸都市の言語調査によれば、沿岸部に紀州からの影響がわずかに残存しているが、全般的には、利根川の上流下流によって言語が若干異なること、大きな都市では東京の影響が見られることなどが明らかになった。

本研究では、研究成果をもとにした下総地域の都市の展示を構想し、二回にわたって各共同研究員が展示シナリオを提示して議論を行ったが、まとまった展示シナリオ案の作成は課題として残されることとなった。

3 文部省科学研究費補助金・基盤研究A(1)「伝統的都市の地域的特性とその変容に関する比較研究―関東圏と中部圏を中心に―」(研究代表者・上野和男)

(1) 研究目的

日本列島には、地域的に多様な性格をもつ都市が存在している。日本の都市は、一方では独自の都市空間、都市社会構造、都市民俗文化をもち、また、形成過程や周辺地域との関係、あるいは日本社会における位置などにおいて、それぞれ独自の性格をもちつつ存在しているが、他方では、一定の地域の都市には共通する地域的特性が存在する。たとえば、近世に形成された城下町であっても、関東地方の都市と中部地方の都市とはさまざまな点において地域的特性が異なる。これまでの日本の都市に関する都市人類学、都市民俗学、都市社会学、都市史などの研究は膨大な蓄積があるが、これらは都市祭礼、都市民俗などの個別的な研究もしくは、近代産業都市、城下町・市場町などの個別都市のモノグラフ研究が主体であって、それぞれの都市の形成過程や社会構造、民俗文化が、これらの研究によって、個別的に明らかにされたが、都市の性格を総体的に把握し、他の地域の都市との比較して日本の都市の地域的特性が考察されることはほとんどなかった。

本研究は、これまでの日本の都市研究の成果をふまえながら、日本の都市の地域的多様性に着目し、現代日本の都市の地域的特性とその変容を、主として近世以降に成立したいくつかの地方都市の多角的な比較研究によって明かにしようとする一つの試みである。この意味で本研究は、日本社会の地域性研究のひとつとしての都市の地域性研究の試みでもある。

本研究では、都市空間構造、都市社会構造、都市民俗文化の三つの視点から、日本の地方都市の地域的特性にアプローチする。都市空間の問

題としては、都市の地理的な立地、都市空間構造、空間認識の問題が重要である。都市の空間構造は、都市がどのような地理的位置に立地し、どのような都市計画にもとづいて形成が行なわれたかに大きく規定され、都市地域特性の重要な要因となる。したがって、本研究では都市空間構造を景観を含めて歴史的にも明らかにするとともに、都市住民の空間認識の問題も重視したい。都市社会構造の問題としては、家族・親族組織、近隣組織、祭祀組織、権力構造などの都市内部の社会組織の問題のみならず、都市と周辺地域との関係、とくに婚姻関係、親族関係、物資の流通関係にも注目したい。日本の都市は、周辺地域とともに都鄙連続体となして一定の都市圏を形成しているが、この都市圏が地域特性形成の重要な単位になっていると考えられるからである。また、都市民俗文化の問題として、都市祭礼、都市言語、都市の音環境（サウンドスケープ）をとりあげる。都市祭礼はこれまでの都市人類学、都市民俗学的研究においても中心課題のひとつであったが、都市祭礼の多くが基本的に近世に形成されたものが多いから、現在の都市祭礼の分析とともに、近世以降、歴史的にも儀礼過程や組織の分析を試みたい。都市で独自に形成される都市言語や、都市生活を投影した都市の音環境も都市の地域的特性の重要な要素であり、都市分析の新たな試みとして言語や音環境にも注目したい。

(2) 研究組織（*は研究代表者）
 上野 和男 国立歴史民俗博物館民俗研究部
 小林 忠雄 東京家政学院大学人文学部

内田 忠賢 お茶の水女子大学文教育学部
 島村 恭則 国立歴史民俗博物館民俗研究部
 久留島 浩 国立歴史民俗博物館歴史研究部
 青山 宏夫 国立歴史民俗博物館歴史研究部
 中井 精一 富山大学人文学部
 鳥越けい子 聖心女子大学文学部
 *吉田 伸之 東京大学大学院人文社会系研究科
 岩淵 令治 国立歴史民俗博物館歴史研究部
 斉藤 善之 東北学院大学経済学部

(3) 研究成果

二〇〇〇年度

本研究は、三年間にわたって現地調査と文献研究の両面から課題に接近するが、研究の中心は、現地調査による新たな資料の収集とその分析、文献の収集と分析である。調査は社会調査、民俗調査、言語調査、史料調査をそれぞれの都市において実施し、各分担者は関東と中部の複数の都市調査を実施し、相互に比較しながら研究を進めた。初年度の研究成果を具体的に示せば、以下のとおりである。

①文献の収集と文献目録の作成

今年度は千葉県と茨城県を中心にこれまでの都市人類学、都市民俗学、都市社会学、都市史などの文献を収集し、コンピューターに入力した。

②現地調査

第一年度にあたる平成一二年度は、茨城県土浦市、千葉県野田市・佐原市・水海道市・銚子市、岐阜県高山市・古川町、富山県八尾町などの地域で現地調査を実施し、資料を収集した。

③映像記録の作成の準備

関東の都市のうち佐原市について、佐原の都市地域特性を記録した映

像資料記録を作成する準備として、佐原の祭礼の詳細な調査を実施した。映像資料の内容をほぼ確定した。

二〇〇一年度

本研究は、三年間にわたって現地調査と文献研究の両面から課題に接近するが、研究の中心は、現地調査による新たな資料の収集とその分析、文献の収集と分析である。調査は社会調査、民俗調査、言語調査、史料調査をそれぞれの都市において実施し、各分担者は関東と中部の複数の都市調査を実施し、相互に比較しながら研究を進めた。第二年度の研究成果を具体的に示せば、以下のとおりである。

① 文献の収集と文献目録の作成

今年度は千葉県と東京都を中心にこれまでの都市人類学、都市民俗学、都市社会学、都市史などの文献を収集し、コンピューターに入力した。

② 現地調査

第二年度にあたる平成一三年度は以下の地域で現地調査を実施し、資料を収集した。茨城県土浦市、千葉県野田市、佐原市、水海道市、銚子市、岐阜県高山市、古川町、滋賀県日野町、大津市、長浜市。

③ 映像記録の作成の準備

関東の都市のうち佐原市について、佐原の都市地域特性である「双分制的構造」に注目し、佐原で毎年行われている二つの都市祭礼（八坂神社夏祭と諏訪神社秋祭）を記録した映像資料記録を作成をめざし、今年度は、諏訪神社秋祭を中心に映像記録「新宿諏訪神社秋祭―北総佐原の二つの都市祭礼―」（一八〇分）を作成した。その主な内容は以下の通りである。

- ・ 佐原の位置、町並み、幣台年番町北横宿、山車番組図
- ・ 準備会議（八朔参会、幣台区長当役長会議、当役会議、北横宿当役会議、囃子依頼、氏子年番第一連合幹事会議）
- ・ 山車飾りつけ、踊り練習、提灯配り

・ 秋祭第一日（安全祈願祭、北横宿山車出発式、山車乱曳き巡行、例祭神事、御輿発輿式、浜降り、御輿お旅所着輿式、山車夜間巡行）

・ 秋祭第二日（山車乱曳き巡行、幣台年番引継行事、幣台年番引継事前行事、宵宮祭、幣台年番引き別れ行事、山車夜間巡行）

・ 秋祭第二日（御輿お旅所発輿式、御神幸、年番前後三町代表巡行、お祭広場山車特別曳き回し、下番の式、御輿年番引継行事、御輿御本社環御祭、山車夜間巡行、北横宿山車終了式）

二〇〇二年度

本研究は、三年間にわたって現地調査と文献研究の両面から課題に接近するが、研究の中心は、現地調査による新たな資料の収集とその分析、文献の収集と分析である。調査は社会調査、民俗調査、言語調査、史料調査をそれぞれの都市において実施し、各分担者は関東と中部の複数の都市調査を実施し、相互に比較しながら研究を進めた。第三年度の研究成果を具体的に示せば、以下のとおりである。

① 文献の収集と文献目録の作成

今年度は茨城県と東京都を中心にこれまでの都市人類学、都市民俗学、都市社会学、都市史などの文献を収集し、コンピューターに入力した。

② 現地調査

第三年度にあたる平成一三年度は以下の地域で現地調査を実施し、資料を収集した。千葉県野田市、佐原市、銚子市、関宿町、岐阜県高山市、古川町、埼玉県川越市、熊谷市

③ 映像記録の作成

関東の都市のうち佐原市について、佐原の都市地域特性である「双分制的構造」に注目し、佐原で毎年行われている二つの都市祭礼（八坂神社夏祭と諏訪神社秋祭）を記録した映像資料記録を作成をめざし、今年度は、以下の二篇の映像資料を作成した。

- ・ 「佐原の町の二つの祭―八坂神社夏祭と諏訪神社秋祭―」

・「本宿八坂神社夏祭―北総佐原の二つの都市祭礼?―」

(DV八二分)

(DV二七〇分)

いずれの作品も、とくに祭礼の準備過程を重視し、可能な限り撮影を実施した。とくに、後者は研究資料として制作したものであり、きわめて長時間の祭礼記録となった。前者は、いわば総集編ともいふべき映像資料であり、この映像に主な儀礼過程を網羅しつつ、佐原の祭礼の現在と歴史が理解できるようにとめた。中心作品である「佐原の町の二つの祭―八坂神社夏祭と諏訪神社秋祭―」主要な内容は以下の通りである。

○映像の趣旨

○佐原の位置と歴史の概要

○本宿八坂神社夏祭

・本宿地区概要(町並、地図、八坂神社、奥宮)

・山車と囃子(山車構造、囃子の構成、山車隊列)

・準備会議(惣町定例会議)

・獅子衣装合わせと踊りの練習

・奥宮祭と祇園祭

・夏祭第一日目(デボケ、山車巡行、各町の山車、夜の山車巡行)

・夏祭第二日目(新婚祝い、当役交渉、番組定位置、の字まわし、総踊り)

・夏祭第三日目(三役呼び出し、神事、神輿巡行、浜降り、個人祈

禱、神輿年番引継行事)

・夏祭の特徴(年番順序、惣町年番と山車年番、山車番組図、山車

古写真)

○新宿諏訪神社秋祭

・新宿地区概要(町並、地図、諏訪神社)

・準備会議(八朔参会、北横宿当役会議、神輿年番第一連合幹事会

議)

・下座連依頼

・山車飾りつけ、踊り練習、提灯配り

・秋祭第一日(安全祈願祭、北横宿山車出発式、山車乱曳き巡行、

例祭神事、御輿発興式、浜降り、御輿お旅所着興式、山車夜間巡

行)

・秋祭第二日(山車乱曳き巡行、幣台年番引継行事、各町の山車、

幣台年番引継神前行事、幣台年番曳き別れ行事、山車夜間巡行)

・秋祭第三日(御輿お旅所発興式、御神幸、御輿年番引継行事)

④研究成果報告書の刊行

3年間の研究成果を論文として集約した報告書「伝統的方都市の地域的特性とその変容に関する比較研究―関東圏と中部圏を中心に―」を刊行した。

4 研究成果報告

以上に記述した経過で基幹研究「日本における都市生活史の研究(第二期)」のB班の研究が実施されたのち、論文の執筆作業に入り、ここに研究成果を『国立歴史民俗博物館研究報告』の一冊として刊行することとなった。本報告におさめられた諸論文は、期限までに提出された民俗関係の論文が中心となったが、歴史関係の論文についてはあらためて刊行を期したいと考えている。

この基幹研究に参加していただいた共同研究員の方々、とくに、この報告書に論文を寄稿していただいた方々には深く感謝したい。

(国立歴史民俗博物館研究部)